

名家連ニュース

令和元年11月13日(水)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX (052) 846-5576 NO. 662号

◆ みんなねっと愛知大会 ◆

第12回全国精神保健福祉家族大会—みんなねっと愛知大会が、11月7日(木)、8日(金)に、刈谷市(刈谷市総合文化センター、刈谷市産業振興センター)で開催されました。

尾崎紀夫先生の基調講演「社会で暮らす当事者のために精神医学は何かできるのか—妊娠出産から自動車運転まで」：当事者が、結婚・出産、就職、自動車運転などをあきらめることなく、それなりに社会で暮らすことができるように援助するのが精神科医療の目標だと熱く語られました。

バナード・イェイコブ氏の記念公演「ベルギーにおける地域移行について」：およそ10年かけて、定着させたベルギー方式の根本が、「当事者抜きで当事者のことを決めない」という理念であることが伝わりました。当初、医療関係者の90%が反対したが、時間がかかるけれど、良いやり方だと証明してみせると説得したそうです。(ベルギーでは、それまでにいくつかの改革が失敗していたことを後で知り、説得できた理由が少し納得できました。なお、同氏は前日に東京でも講演されています。)

2日目は、6つの分科会に分かれて、それぞれのテーマで討議が行われました。

来年の全国大会は、11月12日(木)、13日(金)、宮崎県宮崎市宮崎観光ホテルで開催されます。
(名家連ニュース担当/広瀬)



寄稿：第1分科会「当事者の地域移行・地域定着」の感想

普通は、「衣・食・住」と言われますが、ここでは、精神障碍の本人が地域で暮らすとき必要な要素として紹介されていたのが、「医・職・住・仲間」です。

「職」について、私の家での経験を振り返りながら考えてみました。21歳で統合失調症を宣告された息子は、10数年過ぎてから、就労移行支援を受けはじめ、まもなく期限の2年間になろうかというとき、あるご飯屋さんの厨房に就職が決まりました。1週間に5時間×4日間で、週20時間の限度内での約束です。お昼時間をまたいで休憩なしの5時間は、腹が減ると、不機嫌、不穏になる息子にとって、なかなか厳しいなと感じています。

ここにいたるまで、両親の見方は真っ二つに分かれました。

母 ⇒ 「つらい仕事で病気がぶり返したらどうすんのかよ、長年の苦勞が報われないわよ、家族会では、どんな対応が良いと言ってるのよ。」

父(私) ⇒ 「本人の希望だ、先ず本人の気持ちだ」

母 ⇒ 「その本人が、正しく気持ちを訴える事ができない病気なのよ」

この大会で、誰の指摘も忘れませんが、「障碍者の失敗する権利」の尊重が有りました。

「就職塾・代表」が、「就職の面接では、『私はこんな事が嫌いです、こんな事ができません、こんな弱点があります』といっぱい話をして、企業が『それならば、うちには無理だな』と言われたら、そんな会社は行かなくて良いのです。」と話されていました。常識と真逆の発想が大変面白かったです。

(寄稿：みどり家族会/北沢)

